

## 輝く星は永遠に

1950年代に熱狂的な人気を誇ったファセル・ヴェガは、その後、静かに忘れ去られていった。最近になって、この希少価値の高い高級車に再び注目が集まっている。



かつてフランスにあったファセルという高級自動車メーカーは、誰もがエレガントと認めるモデルを世に送り出していた。プロモーションで使われたキャッチコピーは、「最高級を所有する選ばれた人たちのために」というものだ。ファセルは、不思議なほどに郷愁をそそる魅力的な名前だ。ファセルを生産していた会社は、もともと金属加工業を営んでおり、その正式名称は長々しく覚えづらいものだった。そこで会社名の頭文字をとって「ファセル」がクルマの名称に採用された。

創業者であるフランスの実業家ジャン・ダニノが営んでいたユール・エ・ロワール金属加工所は、1939年に設立され、航空業界向けの部品を生産していた。その後の自動車業界への参入には、戦後の重課税によって衰退してしまったフランス高級自動車産業をもう一度復活させたいという、ダニノの愛国的な気持ちも込められていた。

1954年のパリの公式展覧会にて、ファセル・ヴェガFVは、センセーショナルに発表された。モデル名はこと座で最も明るい星であるヴェガ（織姫星）にちなみ、縦型のデュアル・ライト、クーペ型の滑らかなボディライン、温室のように豊富に使われているウインドウのガラスが来場者をアッと驚かせた（1956年のFVSモデルからは、シンボルとなる「パノラミック型」のフロントガラスも取り入れられている）。

このファセルには4.5リッター、180馬力のクライスラーV8エンジンが搭載され、プッシュボタン式のオートマチック変速、またはスポーツタイプの4速マニュアル変速がオプションとなっていた。約1800キロという重量は多くの人から超重量級としてみなされたものの、人の目を惹きつけてやまない外観にマッチするだけのあらゆる性能を完備していた。

パリの工場で、一つひとつ手作業で組み立てられたファセルは、途方もなく高価で、基本的に受注生産だったため、顧客は一部の機能を特別仕様にすることもできた。その結果、エキゾチックな魅力がさらに高まり、ステータシンボルとしてのクルマを求めた国際ビジネスマンたちを惹きつけることになったのだ。

こうして、高級車のマニアからハリウッド・スターまでがこぞってファセルを購入しだした。この傾向は、1958年によりハイパワースタイルなHK500が生まれ、さらに1962年に究極のファセルIIが発表されると、一段と顕著なものになった。エンジンは5.9リッターからグラランド・ツーリングのパワーがある6.3リッターへ、さらに風を切るようなスピードを生み出す6.7リッターの「タイ



「フーン」が搭載され、400馬力近いパワーを炸裂させることになった。後期のモデルはモーター誌のストリートテストでも最速のドラッグレースマシンとして評価され、HK500は4分の1マイル（約400メートル）を16.3秒という記録的なスピードで駆け抜け、最高速度の時速232キロを記録した。

正真正銘の「世界最速の4シーター」という定評に、見事なルックスと限定バージョンの希少価値（ファセル・ヴェガの年間生産台数は最大でも、1957年のわずか118台）が相まって、モロッコの国王、イランのシャーをはじめ、ビートルズのリンゴ・スター、「ラット・バック」でお馴染みの、俳優で歌手のディーン・マーティンやフランク・シナトラ、さらには作家のジャッキー・コリンズもその所有者として名を連ねている。ファセルは、世界中のフランス大使館で公用車として供給されたばかりでなく、ハリウッド・スターたちの人気も

集め、デビー・レイノルズ、エヴァ・ガードナー、トニー・カーティス、ジョン・フォントインなどが数少ないモデルを手中に収めた。

しかし、イギリスのレーシング・ドライバー、スターリング・モスほど、ファセルを賞賛した有名人はいないだろう。ヨーロッパの各レース場に飛行機を使わず、自らHK500のハンドルを握って赴いた。「素晴らしいクルマだったね。ハイスピードの紳士向けのクルマで、静かで心地よく、とても速い。悪い印象はひとつもないよ」と彼は述懐している。

だが、ファセルにとって望ましくない事件が1960年1月に起こった。ファセルHK500に乗っていたフランスのノベル作家で哲学者のアルベール・カミュが、事故で亡くなったのだ。マルセイユ近郊のルールマランの自宅からパリに向かう予定だったカミュは、すでに列車の切符も購入していた。しかし、直前に予定を変更し、友人であり、彼の本の出版人の甥、ミシェル・ガリマルが運転するファセルに同乗し、不幸に見舞われたのだ。1960年1月4日、サンス近くを走っていたHK500は、濡れていた路面から外れて2本の木に激突し、カミュはリアウィンドウの窓から飛び出して即死し、カリマールもまた頭部に負った重傷により亡くなった。

偶然にも同じ年に、ファセルのスターモデルにしては、あまり間を置かずに後継モデルが登場することになった。小型モデルによってさらに市場の拡大を狙うという前年の決定に従い、4シーターのクーペカプリオレ「ファセリア」

が導入された。ヴェガのミニバージョンとしてのルックスや滑らかにフィットするドアハンドルが人々を惹きつけ、大ヒットの可能性も秘めていた。しかし、脆弱で信頼性のないエンジンが致命傷となった。

ファセリアの性能はあまりにも惨憺たるものだったため、経営者タニノは財務状況の悪化で辞任を余儀なくされた。新社長は不良パーツの無料交換を約束したものの、すでに時遅しだった。1964年、工場は自動車生産を停止した。その後の数十年間、ファセルは忘却のなかに押しやられ、1990年代の初頭にかなり保存状態のよいモデルが売り出されたが、取引価格はわずか1万6500米ドルに過ぎなかった。

しかし、この10年間に盛り上がりを見せているクラシックカー・ブームによって、エキゾチックなルックスを持つファセルを再評価する動きがある。修復されたファセルIIとHK500は、現在では20万米ドルの値段を付けることも珍しくない。現在までに付けた最高値は33万7500英ポンド（52万9000米ドル）となっている。2013年12月のロンドンのボナムズ・オークションで、前述のリンゴ・スターのクルマが落札された時の価格だ。

リンゴ・スターは、1964年のアールズ・コート・モーターショーに展示されていたファセルIIを即決の5570ポンド（1万5500米ドル）で購入した。

1958年に発表されたファセルHK500（下）は、初期モデルを大幅にパワーアップし、数多くの有名人たちを虜にした。エヴァ・ガードナー（上）はファセルの大ファンで、数台を所有していた。ファセルIIクーペ（前見開きページと次ページ）は、「世界で最も速い4シーター」という触れ込みで登場した高級GT車であり、6.7リッターエンジンを搭載していた。上質革シートのインテリアや木目調のダッシュボードがこのクルマの高級感をさらに高めていた。



当時のジャガー・Eタイプは2倍の価格であり、ロールスロイスのシルバークラウドとほぼ同じ値段だ。右ハンドルモデルとして生産された26台の最後の1台であり、6・7リッター「タイフーン」エンジンを搭載する5台のマニュアル車のうちの1台だった。

1年後の1965年にビートルズが「ドライヴ・マイ・カー」という曲を発表したのは、単なる偶然なのだろうか。ファセルのファンであれば、言わずもがなの印象を抱くに違いない。

※  
「パテック・フィリップマガジン・エクストラ」(patek.com/swiss)にて、この記事の特別関連コンテンツをご覧ください。

PHOTOGRAPHS: AMPAS/SANFORD ROTH/CAMERA PRESS BOB DOLINO/THE ENTHUSIAST NETWORK/GETTY IMAGES